

## コリント人への手紙第一 5章 1-13節「むしろ悲しんで」

小池 宏明 牧師

5章では、パウロは、教会のメンバーの間で横行している「淫らな行い」すなわち、性的な不品行に対して、教会が悲しむことも咎めることも取り除くこともしていないことを指摘している。

### \*地上と解く者は天上でも

ここで、イエス様が語られた戒規（教会の聖さを保つための戒め）を確認しておく必要がある。（マタイの福音書 18章 15-20節）主イエス様は、教会の集まりが、聖なるものであるように求めておられる。そして、兄弟姉妹の罪を指摘することは、その人を切り捨てるのではなくて、その人が罪を悔い改めて謝罪して、互いに和解して、主にある兄弟姉妹として共に生きるようになるためである、というのである。ところが、当時のコリントにある教会の場合は、淫らな行いが教会の中に広がっていて、そのことが正当化されつつあった。それで、パウロは、教会全体が罪深い集まりにならないように、当事者たちに悔い改めを促す意味で、除名するように求めている。

### \*日本における偶像礼拝問題

今日の日本において、教会が警戒しておきたい罪は偶像礼拝であろう。日本人に救い主イエス・キリストを伝えようとするときに、どうしても偶像礼拝の問題に直面し、徐々に妥協が始まっていくことはないだろうか。この問題は、かつて、戦前から戦中において「みんなが実施する国民儀礼だから安心だ」と正当化して天皇礼拝や宮城遥拝を行ったキリスト教会の偶像礼拝の罪の再来になってしまう。もし、この問題で悩んだり、苦しんだり、解決できない課題がある方は、未信者の方でも、キリスト者の方でも、一人で悩まずに、ぜひ、牧師や先輩キリスト者に相談してほしい。

### \*教会を聖くために執り成し祈る

最後に、私たちキリスト者は、イエス・キリストの十字架の贖いによって、罪赦された者であるが、もう決して罪を犯さない、というわけではない。罪を犯してしまう。また、赦されているから何をしていても良いわけではない。罪を悲しみ、主の憐れみを求め続け、聖さを求め続けて生きたい。そして、自分さえよければ良いと言うことではなくて、一つの共同体として、主にある兄弟姉妹として共に歩んで行くために、互いに祈り合いながら歩んでいきたい。教会全体の聖さを保つことが、私たちキリストの教会の大きな責任であることを、もう一度自覚して、教会のために、一人ひとりのために執り成し祈る群れでありた

>